

神楽名

ふる えだ お 古枝尾神楽

伝承地

古枝尾地区
椎葉村大字不土野古枝尾

指定等

国指定重要無形民俗文化財

伝承団体

古枝尾神楽保存会
代表 那須 宗則



手力面

◆ 神楽の概要・由来・その他

古枝尾地区は椎葉村の西端、不土野川流域山間地に位置する世帯数16戸の集落である。昭和40年頃までは、古枝尾八幡神社の四季ごとの祭りが旧暦で行われ、当時は春祭りにも神楽が奉納されていた。現在は春祭りには的射が、冬祭りとして神楽が奉納されている。平成元年に古枝尾センターが建設される以前は、民家を神楽宿とし、上組と下組の2組が輪番で夜どおし神楽を行っていた。保存会の高齢化のため、近年は昼頃に始め夜中の12時過ぎに終える形となっている。

古枝尾神楽の特徴は、六調子のゆっくりとしたテンポと、足の腹を見せないようすり足の舞いである。鈴は錫杖型のみを使用し、衣装は紋付き袴で舞うことがこだわりである。「座直り」「地ガタメ」「三熊」などの演目の後に御神酒がふるまわれ、参拝者は祝子より「重ねの酌」で2度ずつ盃を受ける。

◆ 芸能の機会・場所

● 古枝尾八幡神社冬祭り

12月第2土曜日、昼頃から深夜12時過ぎまで、古枝尾センターにて奉納

◆ 演目一覧

エリメ	板起こし	屋祓い	祭式行事	座直り	神しょうぜ
壱神楽	下ノ重	地ガタメ	弓将護(弓通し)	門ノ手	
ショウゴン殿	天大ノ森	大神殿	三熊	オキエ	鬼神
ゴツ天皇	手力面	トトリ面	白面	福ノ種播	猪トリ神楽
シバ引面	火ノ神	神送り			

※平成26年12月の神楽奉納の番付に基づく

◆ 演目の特徴

「^{ゆみしょうご}弓将護」は弓を採り物とした舞で、米と麻緒をのせた^{おしき}折敷に弓を突き立てて三方を舞い、その後^{たかまがはら}に高天原に弓をかけ渡して舞う。舞の終了後、祝子が2張の弓を重ねて持ち鈴を振り唱え言をする中、子供たちを弓の間に通し、大声で驚かす「弓通し」が行われる。村民が参加する信仰行事で、弓を通りぬけることにより厄災を祓うと伝えられ、夜泣きが治るとも云われている。矢の舞である「^{かど}門ノ手」の後には、不土野地区に広く伝わる「^{しょうごん}ショウゴン殿」が続き、宝渡しが行われる。お宝のお^{ひつ}櫃を抱え太鼓に腰をかけた太夫の前に願主が次々と進み出て、お宝を頂こうと願い事を述べる。最後の願主に、言上が良かったとお宝が渡される。「^{てんだい}天大ノ森」では、舞の始まる前に「只今より天大ノ森はじまり申す。那須一党の人はおまいり申せ」と口上があり、平家一族である椎葉一党が舞を奉納する。

◆ その他の特徴

- 面... 鬼神、^{たちから}手力、^{ととり}戸取、^{めしゅう}女性面、シバ引 等。
- 楽... 太鼓、笛、^{かね}鉦(銅拍子)、楽板。
「鬼神」「手力面」など面舞の登場には楽板も打たれ、太鼓が激しく叩かれる。
- 装束... 紋服袴、^{じょうい}麻の上衣、^{えぼし}烏帽子、毛笠、宝冠(紙)、鉢巻き 等、足袋は黒色。
- 採り物... 御幣、^{めんぼう}面棒、^{しゃくじょう}扇、鈴(錫杖型)、弓、矢、刀、榊の枝、お^{ひつ}櫃、^{おしき}折敷、^{あさお}麻緒 等。

◆ 伝承の現状・課題

神楽の演目は、以前は世襲制で、父親から長男に継承されてきた。少子高齢化が進み後継者が少なくなり、伝承が消えてしまったものもある。数年前に、地区の誰もが舞うことができるように継承の仕組みを変えた。その結果、神楽への参加者が増加し、太鼓など楽のできる若い人も増えてきている。



門の手



ショウゴン殿



白面